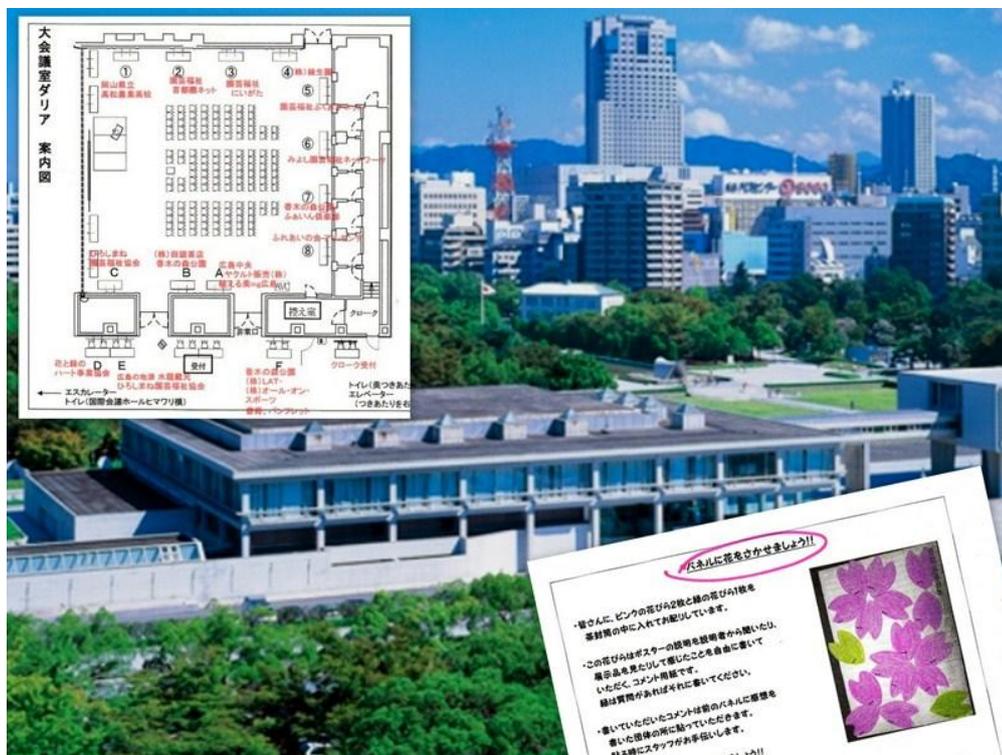


第11回 園芸福祉シンポジウム in 広島 開催報告

2012年6月9日(土)、広島市にある世界遺産の一つ平和記念公園の中にある広島国際会議場にて第11回目のシンポジウムが開催されました。

中国地方は梅雨に入った模様と気象台が発表してから二日目でしたが、幸い素晴らしい天気にも恵まれました。



南は沖縄県、北は福島県から、約180名の方が参加してくださいました。

今回のスローガンは、“園芸の絆がつなぐ ひと・まち・みらい” “とし、園芸福祉のネットワークの強化につながることを期待しました。

午前中は日本園芸福祉普及協会の総会が1時間開催され、午後からシンポジウムが行われました。

シンポジウムは主催者代表の小田原裕紀の挨拶で始まり、基調講演は(財)兵庫県園芸・公園協会理事 花と緑のまちづくりセンター

長石の石原憲一郎氏から「花と緑が、ひと、まち、環境を育てる」と題してこれまでの活動や時代の流れ、まちづくりなどについて約40分お話しいただきました。

続いて、本来ならば韓国釜山市の釜山広域市緑地政策課課長の金 永椿氏から、福岡市と釜山の園芸福祉活動の交流についてお話いただける予定でしたが、あいにく急用のためご都合がつかず、代わりに日本園芸福祉普及協会の吉長理事長がご自身も実際に見ておられる様子をご紹介くださいました。



高松雅子理事による総合司会により小田原代表挨拶でシンポジウムは始まり、石原氏の基調講演をいただき、続いて吉長理事長による韓国釜山の活動状況の説明が行われました

14時過ぎから、今回初めての試みであるポスターセッションが、小田原代表の司会進行で始まりました。これまではお話しする方とそれを聞く方の直接会話や、展示される物品へ質問する機会が少なかったこともあり、今回は自由な雰囲気の中で人々が気楽に心を通わせる場を提供することとしました。会場には8つの展示パネルが設けられ、更に協賛団体の方々がお茶やソフトドリンクを無料提供して下さりリラックスした雰囲気の中でセッションが始まりました。

最初は展示団体から、展示内容をプロジェクターを使って5分で説明してもらい、その後、数分ごとに参加者は場所を移動して自分のみたい、聞きたい展示場所へ移動して交流を深めました。

最後には、会場の前にパネルを用意して参加者に感想や質問を花びら形の紙に書いて貼っていただきました。そして、これまで園芸福祉活動を指導的立場でやってこられた4名のコメンテーターの方々、その感想や質問を面白おかしく紹介してくださいました。また、質問には展示した方がそれにこたえる場もあり、とてもセッションが盛り上がりました。

最後に日本園芸福祉普及協会の吉長成恭理事長からご挨拶をいただきました。これからも園芸福祉活動がますます広がり、発展するようみんなで育てていこうと呼びかけられました。

島根県邑南町のふあいん倶楽部会長の松本弘江さんによって最後は閉会の挨拶が述べられ、主催者として感謝の意を表されました。



ポスターセッションの様子



日本園芸福祉普及協会 理事長
吉長成恭 広島国際大学教授のご挨拶

シンポジウム終了後、川の街広島らしくウォーターフロントにあるカフェレストランで交流会が開催されました。当初予定していたリバークルーズ船では定員を超える参加者となったため、急遽このレストランに場所を変更しました。

はじめに、ひろしまね園芸福祉協会の久保田副代表の司会によって各地から来られた方々に音頭をとっていただき、乾杯が何回も行われて楽しい会が始まりました。会のはじめには福島県の被災地から来られた方に、中国地方の方々が椿の花に託して書いた復興を願うメッセージで作った“絆”オブジェのレプリカを贈呈しました。その後、各地から来られた園芸福祉の仲間があたりが暗くなるまで話に花を咲かせ、交流の輪が大きく広がりました。



シンポジウム翌日の10日も快晴で、宮島ツアーは最高に良いコンディションでした。ツアーに参加された30数名の方々と楽しくのんびり世界遺産の厳島神社を堪能しました。それにしても大勢の観光客が多かったのには驚きました。宮島名物の鹿も暑そうでした。



(2012年6月13日 ひろしまね園芸福祉協会:小田原、進藤記)